

平成26年度
企画展

鏡 の 向 し ろ

— 神を覗る 入を見る —

平成26年
12月6日 土
—
平成27年
6月26日 金

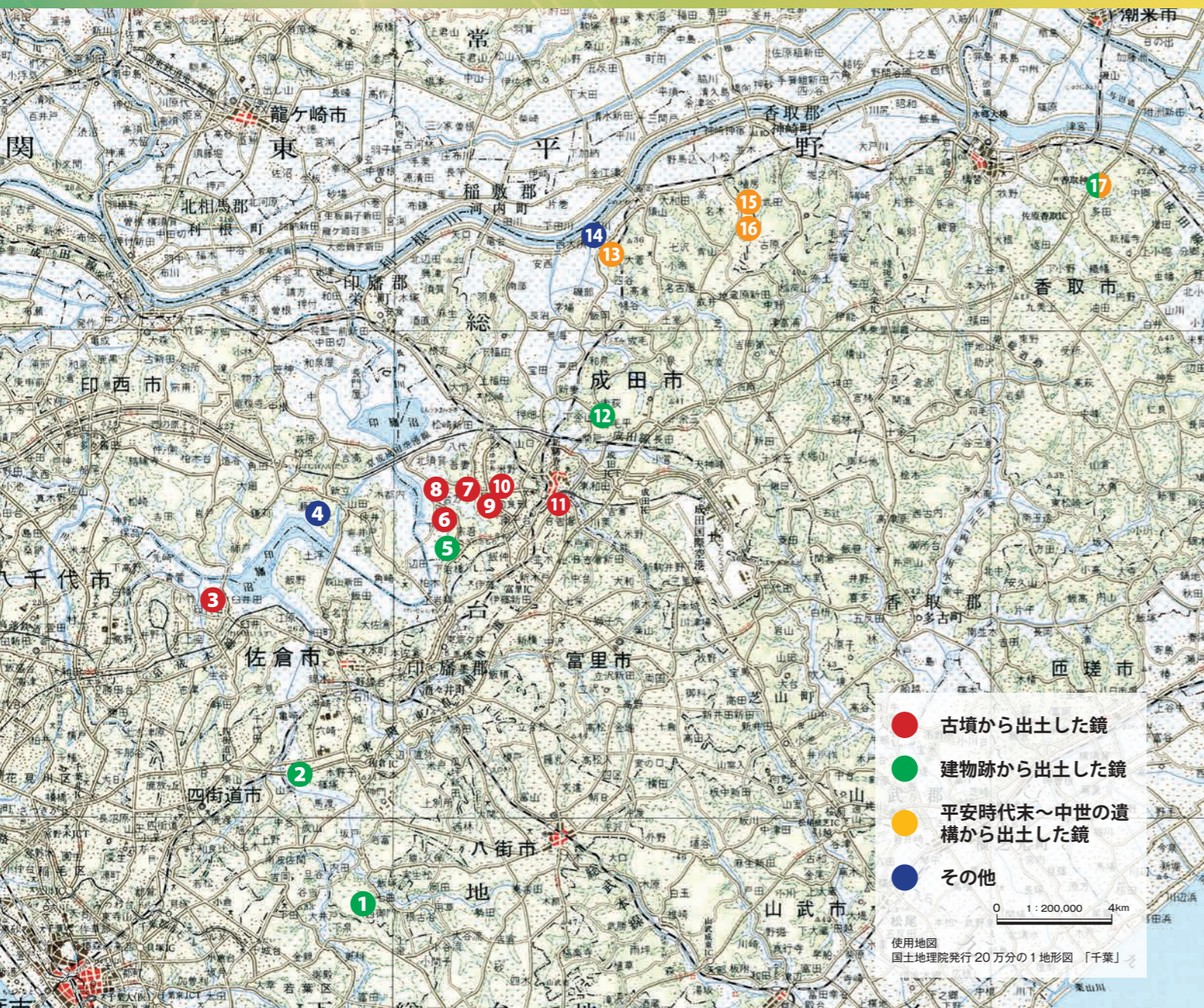
みなさんが普段、身だしなみを整えるのに使っている鏡。現在のように多くの人達が使うようになったのは江戸時代以降で、それ以前は限られた人が持つ道具でした。また鏡は光を反射する特徴から、神様の依代（よりしろ）として信仰の対象となったり、呪術的なことに用いられたりもしてきました。今回は印旛郡内の発掘調査で出土したものや伝世した鏡を紹介しながら、現在でも使われている鏡について見ていきたいと思います。

印旛沼周辺の古墳時代から中世の鏡

昔の鏡は主に青銅（銅と錫の合金）でつくられています。日本列島へは弥生時代、中国や朝鮮半島から持ち込まれ、その後国内でつくられるようになりました。印旛沼周辺地域は千葉県内で有数の鏡出土地域で、今のところ最も古い鏡は、成田市の下方丸塚などから出土した古墳時代前期のものです。古墳時代の鏡は主に亡くなった人への副葬品として見つかっており、この頃の鏡が有力者など一部の人の持ち物であったことがうかがえます。

古墳時代後期から奈良時代・平安時代になると、集落の中の竪穴建物跡から見つかるようになります。これは鏡を用いた何らかの祭祀行為が行われていたと考えられ、有力者の持ち物であった鏡の存在が、庶民の間にも広がってきたことを示しています。

平安時代の終わりから鎌倉時代、室町時代になると鏡の背面の文様が、日本風の図柄になってきます。鏡は香取郡の範囲である旧下総町を中心に、土坑や経塚、屋敷の堀等から出土しています。



- 1 内田端山越遺跡
- 2 太田・大篠塚遺跡
- 3 八幡台遺跡
- 4 瀬戸鈴耕地遺跡
- 5 下方内野南遺跡
- 6 下方丸塚
- 7 船形手黒遺跡
- 8 台方宮代遺跡(2)
- 9 瓢塚16号墳
- 10 瓢塚17号墳
- 11 松ノ木台2号墳
- 12 野毛平木戸下遺跡
- 13 谷津経塚
- 14 昌福寺
- 15 名木大台遺跡
- 16 名木不光寺遺跡
- 17 吉原三王遺跡

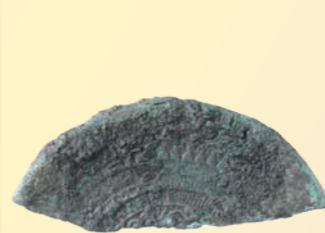
1 佐倉市 内田端山越遺跡



【鏡（文様不明瞭）】
面径 6.2cm
佐倉市教育委員会

8世紀末頃の建物跡から出土。文様は不明瞭ながらもわずかに鋸歯文、圏線が見えます。

2 佐倉市 太田・大篠塚遺跡



【乳文鏡？】
面径（推定）11.2cm
佐倉市教育委員会

全体の1/3程の断片で、6世紀代の焼失した建物跡から出土しました。

4 印西市 瀬戸鈴耕地遺跡



【海獣葡萄鏡】
面径 6.05cm
個人蔵

遺跡の範囲内にある畑から見つかりました。

5 成田市 下方内野南遺跡



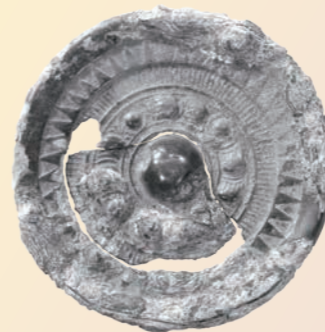
【五獣形鏡】
面径 13.1cm
成田市教育委員会

7世紀代と見られる建物跡から出土。二重の鋸歯文と三重の波文の中に、五匹の獣が表現されています。

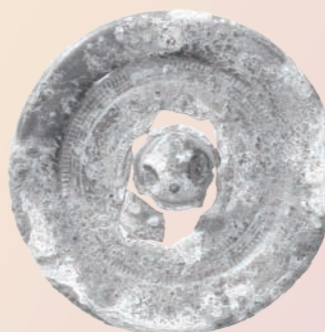
6 成田市 下方丸塚



【半円方格帯変形神獣鏡】
面径 17.41cm
成田山霊光館



【変形獣形鏡】
面径 7.22cm
東京国立博物館
Image:TNM Image Archives



【内行花文鏡】
面径 12.55cm
東京国立博物館
Image:TNM Image Archives



【捺文鏡】
面径 9.52cm
東京国立博物館
Image:TNM Image Archives

印旛沼に面した低地にあった古墳で、鏡4面と勾玉、管玉、ガラス小玉が出土したとされていますが、詳細は分かっていません。

7 成田市 船形手黒遺跡



【変形四獣鏡】
面径 7.0cm
成田市教育委員会

石枕などがみついている5世紀後半の円墳主体部から出土しました。

8 成田市 台方宮代遺跡(2)



【乳文鏡】
面径 8.9cm
成田市教育委員会

台地の先端にある5世紀後半の円墳主体部から刀、ガラス玉とともに出土しました。

9 成田市 瓢塚16号墳



【四獣形鏡】
面径 7.51cm
千葉県立房総のむら

3群130基以上で構成されている公津原古墳群中の2基の古墳から出土しました。

10 成田市 瓢塚17号墳



【乳文鏡】
面径 7.96cm
千葉県立房総のむら

11 富里市
松ノ木台2号墳



【海獣葡萄鏡】
面径 6.2cm
芝山はにわ博物館

7世紀の方墳の周溝部分から出土しました。

12 成田市
野毛平木戸下遺跡



【海獣葡萄鏡】
面径 11.1cm
成田市教育委員会

9世紀代の焼失した建物跡から出土しました。

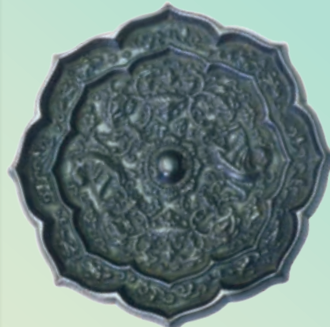
13 成田市
谷津経塚



【瑞花双鳳八花鏡】
面径 16.0cm
東京国立博物館
Image:TNM Image Archives

経典を埋める際に用いた経筒とともに見つかり、経筒には1129年にあたる大治四年の銘文があります。

14 成田市
昌福寺



【瑞花鴛鴦八稜鏡】
面径 約12cm
昌福寺

元は別の寺にあったもので、平将門の愛妾、桔梗前のもという伝承があります。

15 成田市
名木大台遺跡



【双鳥波濤鏡】
面径 10.6cm
千葉県教育委員会

墓と考えられる土坑から出土し、鈕を挟んで2羽の水鳥、天地に大きな波が表現されています。

16 成田市
名木不光寺遺跡



【瑞花鴛鴦八稜鏡】
面径 10.5cm
成田市教育委員会

室町時代の屋敷を取り囲む堀の中から出土しました。鴛鴦はおしどりのことを言います。

17 香取市
吉原三王遺跡



【八稜鏡】
面径 7.86cm
千葉県教育委員会

古墳時代後期から平安時代の集落が中心で、八稜鏡は10世紀頃の建物跡から、山吹双鳥鏡は和鋏などの鉄製品、青白磁合子、青磁碗とともに中世の土坑から出土しました。



【山吹双鳥鏡】
面径 10.08cm
千葉県教育委員会

室町時代の後半から柄鏡が用いられるようになると、鏡は庶民の間で日常的に使われる道具になっていきます。また江戸時代になると女性が髪を結う時に用いたため、鏡が大型化していきます。

明治時代になり、現在でも使われているガラスの鏡が広く流通するようになると、弥生時代から続いてきた青銅鏡の時代は終焉を迎えることになります。

本企画展を開催するにあたって下記の機関より資料提供等のご協力をいただきました。(順不同)

東京国立博物館、千葉県教育委員会、千葉県立房総のむら、公益財団法人千葉県教育振興財団、成田山霊光館、芝山はにわ博物館、成田市教育委員会、佐倉市教育委員会、昌福寺



公益財団法人 印旛郡市文化財センター

千葉県佐倉市春路 1-1-4 TEL 043-484-0126 <http://www.inba.or.jp/>